閑居　十六

E 23
48

東京大学総合図書館

東京帝國大學圖書印

東京大学総合図書館

いはれけるとかしこき故院の御ことも思ひしられさせ給ふ
し文永の年ひさしうまかりにしくなりかはりにし
もてあそひはあはれにかりにし藤のかけをたのみて
たのみきこえて人まれはとさへまかりあらしの山に
しかのみはつれなくもえつゝ人まねゆく人まねよする
くふかくしけき森の山城吹きすくれもう
きしろつゝけいさゝかなたちとまるにとく
年月はかりにかりそめなるもかさなりて
限りありしかは京ありけりすをむまひ文
のこしの秋をひたちのはりならせ人まねも

000583926 1

これはゑびし山とてたうしにまつりゑびすをまつり
京よりかものほとりをいてこうしものくるま
きたる人これはこの国をかさねて給はるへし
ちのはやしきさかしかりけれはまうてあるへし
いちきみをはしめ女車おほくひきつれ御供のものまいり
日さかゆるひかりの法の緑あり正月にあそひ
たかやまにのほりて御ほう其くに人にしあそひ
きたのうちをはしめてみやこをなかめけるかし
これは君の御心ある車ひきつれ出立まいり
ありける人こゝにまゐるへきにもありて車あそ

さるはきこかしこれにをきて其のなかれをきかれけ
いまたうちの車とくるまなりける神のあるあそひ
あらためてしかれはあらためてみなかにあるに
神主の御ゆるしくてありけるにかはらてやまのかみあまた
おほやけのたはこのかたにかくしあれいてつかひまいらせ
ほうしのみかのすこしあらはれてそのをかみぬ
紀ゝのくにの九月のことなるにはしめのちのいたのをかみ
まつりそなへのあるにいてりしほかてみまいる
勢州山よりはしめのかはりかみをくたのへ
おはこのはる使いきぬいとのくすりを紀のま

くわう太后におりし宮御車は奉れし
ものし給ひしかれもやしろの二君はさい右大臣の
むすめのを給ひしにはかなく名残の世継も人は
えたひとて給ひし左大臣殿に思ひのほかにと哀
なりおほし給ふる年おほくわたらせおはしまさてくゝ
とかくして母も人もはかなくなり給ふの年月を経給ふ
ゆりくてさ物おもひあり
ゑ
給ふとくたいせ事ともなそてさたまれ
君にと人にかたらひて思ひ給へ里給ひつゝかくと聞え
係ともひかれつゝ山にかよひ給ひしの人に右大臣の

さけまいりてひかりの海の御かたにかしこまり
なとにすむるにはかなくもの思ひ給へるさま
つ秀の給ひし事ともかきつくしなとききて
ちゐのみやはかなくれ給ひしおほえぬよのなかと見
わりなきに秀にてはかなくなりにけり
なりゆくをおほしめして年ころはおほつかなく
おほえまして給ひしもいかにしてそのかた
ら給ひしなかなか人のこゝろにはまさらぬ
給へりきかれのことといひしはいかゝしらぬこそ
なりはてゝその後はかしこく左近のそうにまいらせ

ゆゝしくなりけるをきゝてゆかりまさりけるに
詠ひけるはそれにそえておもひまさりくなりまさりし
まさりて世をしらてなけかぬ日なくてなけかるとし
ひとつてなをさけなりせはこゝろつよくあらはなを
なをなけきてありわひ人をたのみてよろこふ
とおもひたかりけり、いもうときゝつけて、とは
おもひありけむや

まこともいひなからなくことなく女あはれ
ひとなりやとおもふみせたりけるかたち
やかてわかれかりし年をとおもへるけしきにて

うたゝねのゆめにけるにいつとなくかたふきいつま
はるかなるひとはなしくきこえしをとこ
みくさわかてなかきよをいかにおもひしく
とていつくともなくてねてもさめてもおもひ
いたきたるを次第におもひをとめん
あひそめかたりにけるあはれなる
くしたるといひけりてこはきゝもあれ
あはれとおもへとこそすくよかりきこえん
さはまそいまけるに時つゝまよひをゆるされ
ねむころにいたはりけり

よと川つゞみくしにゆうすまとゝめしに
みやこへのほれりける
あふ坂の関や行かふ世の人のまよひしけき
みちなれは此世をまよはしむ事のやみなしと思ふこ
色あるかあはれてつゞきて忘れぬ梅とおほ
しき花人のよはひはかりくらふへき物の折から
こゝしたりかはの香はなに此のさとらかすこすおもの
はなりあやうき庵のこしてかならすほか
くりなれは子をにきこそ君の此の代と
ときをよと川の年ことのえの水の色のまくまて

ありはらにゝりてつらきまゝとのこゝろしそゝり
女君ゆへにまよひすゝせありくこれ人すまへは
ふれしく伊勢の国は海にはなりたるまゝ南そ身ま
くとおもひあけ暮いのちを見てそ命ゆめもきりわた
物なれはかしこまりし山へ帰るかたにいそきの今の
いかなりけれはなく海へ行かなる我子とし
のつゝきてあはれとしるそうつり月ま
いひしんと家にえゆくあわめさかやくにわか
せむきしそされはものとも年を経けれは
けとうちへてそあまなけくつゝ身をおほ

かりとおもてかおもて世の中のかりけるためしにあひ
ともがら并矢のくはへるわかりくれかなうち也をと
のこゝろもしらねどもみわかるゝ人皆ゝておきさけ
をりくるわのまへりの弦はめきてしを得すゝをと
ともおもけりうはしまておにうたがはしたる胸き
はせよすとつねそうしょりそいとおき海き
ふたへのかんてかれいろ矢をくせわのおもてく
いふ弓にまりてもそくゝいふるしれ手うたれ
きてそのかりと人をれを持は弓そて人下
のおんともあてせてくおもてりたりのかりおもへは

い梅の花すしとうも山桃草くうらさいとつ梅在
梅花をハいともにほふにあこ弓のとりもこもおぶ
色紳ににほはんハ其の色にほ梅への矢なまとよう
かなしあわれむかしかたそ
おろか

B 7874

東京大学総合図書館

東京大学総合図書館